

その他の接客娯楽業－その他における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	3	14 ～ 15	ゲームセンターの営業を担当する者が、1つの店から他の店へ向かうため、従業員専用出入り口から店を出たときに、後進してきた納品業者の9トントラックにひかれた。	221	7	1～ 9
1999	1	15 ～ 16	施設の庭の除雪作業を行っていたときに、屋根から落ちてきた雪の下敷きになった。	719	5	1～ 9
1999	7	15 ～ 16	カラオケチェーン店の応援にRV車で高速道路を走行中、パーキングエリアの入口で本道とパーキングエリア進入路を区分するドラム缶に激突して横転した。	231	17	1～ 9
1999	10	3 ～ 4	攻馬調教に行く途中、馬場の入り口付近で馬が突然暴走して植え込みの垣根を飛び跳ねたため落馬した。	719	1	1～ 9
1999	9	8 ～ 9	担当する馬に騎乗し朝の乗り運動のため厩舎周辺路上を周回中、突然暴れ出して起立したため、馬上より後ろへ墜落した。	911	1	1～ 9
1999	10	15 ～ 16	海中撮影の撮影補助としてカメラマンら2人とともに潜水していて、海中の激しい潮に巻込まれて行方不明となった。なお、カメラマンは水死体で見された。	713	10	1～ 9
		18	パチンコ店において、出玉の数が異常であったため出玉をコイン計数機に			30

1999	10	～ 19	入っていた男に対して声を掛けたところ、男が逃げ出したので3名で追いかけたところ、男は振り向きざまに1人の左胸にナイフを刺し、そのまま逃走した。	921	90	～ 49
1999	12	10 ～ 11	パチンコ店から売上金を約100メートル離れた事務所へ運ぶ途中、事務所1階エレベーター前で強盗に襲われ胸などを刺された。	921	90	～ 49
2000	9	10 ～ 11	パチンコ店において、入り口のネオン管が切れていたため、アルミ製脚立の五段目(高さ1.42m)で取替え作業を行っていたときに、バランスを崩して転落した。	371	1	～ 29
2000	10	6 ～ 7	ゴルフ練習場を囲ってあるネットを吊り上げるウインチのワイヤーロープを取り替える作業中、ウインチのワイヤーロープが切断し約高さ15メートルのところから墜落した。	219	1	1～ 9
2000	5	16 ～ 17	パドックで競走馬の周回を開始したところ、索引する馬の後足が接触して仰向けに転倒したが手綱を離さなかったため、馬の後足で数回踏まれた。	911	6	～ 29
2000	12	12 ～ 13	閉店時間となったので店内2階の戸締まりを行っていたときに、店内2階入口に設置されていた電動式防火防災シャッター(横5m10センチ、高さ3m)に背中を挟まれた。	419	7	～ 99
2000	3	17 ～ 18	障害者交流センターの屋内プールにおいて、第1コース底面にうつ伏せで溺死しているのが発見された。	713	10	～ 29
2000	3	10 ～ 11	スキーで、スキー場内の巡回と清涼飲料水等の自動販売機の代金回収・在庫確認を行い事務所に戻る途中、勾配約16度17m幅の下山コース途中でコースの外に設置されたリフトの鋼製支柱に激突した。	418	3	～ 299
2000	9	23 ～ 24	宴会場にある自動販売機の配線取替を天井裏で行っていたときに、活線(電圧100V)に接触し感電した。	351	13	～ 299

2000	4	15 ～ 16	ダイビングのインストラクターがダイビングのガイドを終えて陸上に上がってボンベ等の装備を解いたのち錨を引き上げるため素潜りで12m下の海底へ潜り溺死した。	713	10	1～ 9
2001	2	14 ～ 15	ゲレンデ内で第1リフトの降り場を担当していた者が第3リフトの乗り場担当者と交替するためスキーでゲレンデを移動していて連絡コース下の立ち木に激突した。	712	3	10 ～ 29
2001	1	20 ～ 21	パチンコホールに警察官を名乗る男が来店し、「責任者に会いたい。」と言ったので店長が不在のため主任がその男を事務所内へ案内し、しばらくして他の店員がその事務所に入ったところ刃物のようなもので数箇所刺されて倒れていた。	911	90	10 ～ 29
2001	2	11 ～ 12	仕事の打合せのため車で走行中、カーブでセンターラインを越えたため対向のトラックと衝突した。	231	17	10 ～ 29
2001	5	14 ～ 15	ボート4艘でラフティング運航中、7名乗艇のボートが大きく傾き6名が川に投げ出された。(2名が約300m下流まで流されたが6名は直ぐに他のボートで救助された)	713	10	10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	10 ～ 29
2001	9	1 ～	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	10 ～

		2							29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	～			10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	～			10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	～			10 ～ 29
2001	9	1 ～ 2	雑居ビルで放火と考えられる火災が発生し、3階並び4階の従業員が逃げ遅れて死亡した。	418	16	～			10 ～ 29
2001	12	13 ～ 14	店内の事務所で勤務中にホールで火災が発生したので消火作業を行ったが、火の勢いが強いので退避するため、トイレ内の確認に入ったときに一酸化中毒になった。	514	12	～			30 ～ 49
2001	12	17 ～ 18	コンパニオンの運転する乗用車が宴会場に向かうため交差点に進出したところ、国道を走行してきたトレーラーと出会い頭に衝突して車外に投げ出された。	231	17	～			10 ～ 29
2001	7	17 ～ 18	他店の販売状況などの調査のため自動二輪車で走行中、横断歩道標識に衝突して腹部を強打した。	231	17	～			50 ～ 99
2001	4	16 ～ 17	2人で板材を資材置場までトラックで運搬してきて、1人が倉庫に確認に行っている間にトラックの荷台に乗り、墜落して頭部を打った。	221	1	～			30 ～ 49
2003	2	16 ～	市場調査を終え乗用車で事業場にもどるため国道を走行中、左カーブ（片側1車線、道幅6.3m）で対向車と衝突した。	231	17	～			10 ～

		17				29
2003	4	16 ～ 17	自然動物公園内のライオンセクションにおいて、ライオンを客に見せるためライオンがその場を動かないよう監視作業を行っていたときに、同僚が監視していた別の場所のライオンが興奮して動き出したのでその方向へ移動したところ、道路上に約15頭のライオンが集まっており、それを追いついたところ同僚がうつ伏せに倒れていた。	719	90	～ 99
2003	5	16 ～ 17	運動公園に植樹されているクスノキ（高さ9.5m）の枝（地上からの高さ4.4m）に両足を乗せてのこぎりで枝切り作業を行っていたときに、枝が折れて4.4m下のコンクリート敷地に墜落した。	712	1	～ 29
2003	5	16 ～ 17	ダイビング講習が終了して帰港するためのアンカー引上げ作業で、水深約4mの岩礁に引っ掛け設置していた後方の爪アンカーを外すため素潜りで3度目に潜ったまま水面には上がってこず、溺死した。	713	10	1～ 9
2003	6	10 ～ 11	刈払機を使用して事業場に隣接する会長宅の庭の草刈作業中に、庭の端部であるコンクリート擁（よう）壁から約7m下の河原に誤って転落した。	419	1	1～ 9
2003	7	9 ～ 10	他のパチンコ店の統計を取りに行くため、軽自動車で国道を走行中、ハンドル操作を誤ってセンターラインを越え、対向車線に飛び出してトラックと衝突した。	231	17	～ 299
2003	11	18 ～ 19	建物の壁に掲示していた垂れ幕を取り外すため、はしご（脚立を広げたもの）に登ったときに、はしごとともに転落した。	371	1	1～ 9
2005	8	11 ～ 12	橋の上からバンジージャンプを飛び終えたジャンパーをゴムボートに収容する作業中、オールでボートをコントロールしていた際に、後ろ向きで川に転落した。	713	10	1～ 9
2005	11	15 ～ 16	ガソリンエンジンの動力噴霧機を使用して浴室の掃除をしていたところ、一酸化炭素中毒により浴槽内に倒れた。	111	12	1～ 9

2006	3	22 ～ 23	屋上で懸垂幕の取付け作業終了後に、高さ1.38メートルの懸垂幕取付けフレームより屋上面に墜落した。ヘルメットは着用していなかった。	419	1	30 ～ 49
2006	4	11 ～ 12	新しく赴任した2人で、施設内の状況を把握するための見回りの一環として地下の柔道用床収納室に入り、奥側へ進んでいたとき、柔道用床収納用の油圧ジャッキ等が収納されている深さ約2.6mのピット内に転落し被災した。	414	1	1～ 9
2006	6	14 ～ 15	国道を乗用車で走行中、急な左カーブで中央線をはみ出し、対向してきたダンプカーに衝突した。	231	17	1～ 9
2006	7	16 ～ 17	被災者は、ばん馬の能力検査を受検させるため、厩舎から新馬に裸馬（鞍を置いていない馬）状態で騎乗し同競馬場内の装鞍所へ移動中、同馬が突然暴れだして疾走したため騎乗していた被災者は落馬し、その後、同馬に蹴られた。	719	6	1～ 9
2006	7	10 ～ 11	圧雪車用の車庫の造作のため、鉄骨で組んだ梁（幅約10cm）の上に乗って梁に角材を取り付ける作業中、被災者がビスの入った段ボール箱をコンパネ上に引上げた後、自分の休憩位置に移動しようとして梁に足をかけたとき、4.9m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10 ～ 29
2006	9	19 ～ 20	被災者は会議に出席後、自宅へ帰るため、自家用車で走行中に路外へ転落した。	231	17	1～ 9
2006	9	8 ～ 9	競輪場において、施設管理員である被災者が芝生の除草剤散布作業のためメインスタンドのあるホームストレート側入口からバンク内に入り、バックストレート側に行くために幅約14mのバンクを横切ろうとしたところ、バンクで練習中の競輪選手が運転する自転車（時速20～30km/h）に激突され強打した。	239	6	100 ～ 299
		7	事業場へ出勤し、2階のロッカー室で仕事着に着替え、1階事務所に置いてあるタイムカードに出勤時間を記録するため、2階から1階へ通じる高			100

2006	9	8	～	さ4. 5 mの階段を降りようとしたところ、階段を踏み外し、1階床面まで転落し、強打した。	413	1	～	299		
2006	7	10	9	～	10	231	17	～	29	
2007	2	17	16	～	17	711	2	～	299	
2007	4	24	23	～	24	351	13	～	49	
2007	5	13	12	～	13	921	90	～	49	
2007	7	16	15	～	16	371	1	～	99	
2007	6	8	7	～	8	169	1	1	～	9
2008	1	12	11	～	12	239	1	～	299	
		14							10	

2008	10	～ 15	事業場1階のゴルフ練習場の天井の鉄骨梁の錆を防止するためにペンキ塗り作業を行っていた作業台（高さ1.64m）から墜落した。	371	1	～ 29
2008	3	～ 15	14 記念公園に併設されている遊園地において、ファミリーフィンガーという遊戯機械の1ヶ月点検で出張点検作業にあたっていた被災者が、支柱と上下するシリンダーにはさまれた。	419	7	～ 29
2008	7	～ 15	14 被災者（テニスコーチ）が遊泳地でテニスツアー参加者の川遊びの付添いをしていた際、5歳と7歳の子供2名がおぼれたため救助しようとしたところ、水深3.2mの深みでおぼれた。	713	10	～ 29
2008	3	～ 14	13 被災者が荷台に作業員1名と肥料3袋を載せた農場内運搬機を運転して、園内の農道（幅員3.5m、下り勾配約3度）を走行している時、急旋回したため路肩から斜度約45度の法面約6.0m（高さ約4.0m）を転落し、運搬機の下敷きになって死亡した。	229	1	～ 29
2008	5	～ 9	8 駐車場の清掃作業中に被災者が事業場建屋の外壁沿いを通行していた際、駐車場の車止めを飛び越えて後進して来た車の後部に激突されて死亡した。	231	6	～ 99
2009	1	～ 24	23 被災者は、事業場内の仮眠室において20時頃より休憩を取っていた。約4時間近く経っても戻らないため仮眠室内を確認しに行った同僚の作業員により、意識消失状態で発見された。	921	90	～ 99
2009	1	～ 14	13 スキー場終点駅舎において、リフト滑車等の日常点検のため点検台に上がり移動中、点検歩道から約1.4mの位置にあるリフトを動かすプロペラシャフトの下を潜り抜けようとしたところ、当該シャフトの突起物であるグリース注入口（突起高さ約1.2cm）に衣服（防寒着のフード又は襟）が巻込まれ、身体は当該シャフトを軸に数回、回転し被災した。	121	7	300 ～
2009	8	～ 3	2 運送会社の保冷車（3.05t積）が国道を走行中に、対向してきた接客娯楽業所属の作業員（業務中）の運転するワゴン車がセンターラインをはみ出し正面衝突、双方の運転者2人が死亡した。	231	17	～ 49
		21	パチンコ店において、店とトラブルを起こしたことがある男性が来店した			50

2009	9	～	ため、入店を遠慮してもらうように被災者が駐車場にて説得していたところ、男性が所持していたナイフで刺された。	999	99	～
2009	2	～	被災者は、川左岸の釣り場で同僚と二人で川面の清掃作業に従事していた。清掃作業は小船に乗り、たも網でごみを小船に乗せ、陸上にてごみを分別するものであった。被災者らは30分程で清掃作業を終了し、ごみの分別作業のため岸へ戻っている途中、同船がバランスを崩し転覆した。被災者はおぼれ、同僚は近くの栈橋に泳ぎ着いた。	239	10	1～ 9
2009	2	15 ～ 16	被災者は、施設管理業務に従事していたところ、施設利用者が体育館の天井裏に上げてしまったソフトバレーのボールを取りに行くため天井裏に立ち入り、梁上を移動中、天井に張り巡らされているグラスウール製の天井材を踏み抜き、約11m下の床に墜落した。	415	1	1～ 9
2009	2	14 ～ 15	事業場施設設備系の被災者を含み3人で、事業場敷地内にある発電室内の間仕切り用のコンクリートブロック壁高さ約4.7mのうち、床面から高さ約2.3mまでの部分を解体撤去する作業において、解体撤去がほぼ終了したあと、当該コンクリートブロック壁の上部の残存部分が落下し、下で作業をしていた被災者が落下したコンクリートブロック壁の下敷きになった。	419	4	50 ～ 99
2009	11	10 ～ 11	ダイビングの準備作業中、ダイビング船の前方のアンカーを設置した後、後方にも設置しようとしていたダイビングスタッフが後退してきたダイビング船のスクリューに巻き込まれ死亡した。ダイビング船の船長は船前方のアンカー設置後、アンカーロープを張るためにギアをバックに入れたがアンカーロープが張られた後も、ギアを切り替えなかったため被災者がいた位置までダイビング船が後退した。	239	8	1～ 9
2010	7	1 ～ 2	被災者が同乗していたワゴン車が、前を走行していたトラックを追い越して走行車線に戻った際、スピード超過によりトンネルの側壁等に衝突。被災者は車外へ投げ出されて死亡した。	231	17	1～ 9
2010	9	14 ～ 15	被災者は他店の客入り等の調査に向かうため自動二輪車で走行していたところ、交差点を右折してきた乗用車と衝突し、死亡した。	231	17	10 ～ 29

2010	10	22 23	ショッピングセンター内ゲームセンターテナント店舗において、床ワックス施工にかかるビルメンテナンス業者への連絡調整のことで、被災労働者と加害労働者の間で言い争いになった。その際、加害労働者が被災労働者につかみかかって投げ倒し、被災者は後頭部を強打した。その後、被災者は、休憩室で休んでいたものの容体が悪化し、意識不明で倒れているところを発見され、病院に搬送されたが意識が戻らず、2日後に死亡したものの。	921	90	10 ～ 29
2010	12	15 16	スキーリフトの山頂監視小屋において2名でリフト利用客の監視業務を行った。営業終了後、監視小屋周辺の整備作業を終え、リフト点検を兼ねて山麓まで降りるために、先に別の監視員がステージから下りリフトに乗った後、被災者は次の下りリフトに乗ったが、何らかの理由により再びステージへ降車しようとしたため、そのまま当該リフトに押されて、高さ約5mの下の地上に墜落したものの。墜落した箇所については雪はなく砂利だった。	418	1	100 ～ 299
2010	12	1 2	被災者は、会議に出席するため車で移動中、道路脇の標識柱に衝突。病院に搬送されたが、約8時間半後に死亡した。	231	17	30 ～ 49
2010	12	13 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したものの。	719	5	30 ～ 49
2010	12	13 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したものの。	719	5	30 ～ 49
2010	12	13 14	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したものの。	719	5	30 ～ 49
2010	12	13	スキー場のコースのスタート地点付近において、労働者6名が、コースの一部を塞いだ雪崩の撤去の作業を行っていたところ、最初に発生した雪崩	719	5	30 ～

		14	とは別の方向から雪崩が発生し、労働者4名が巻き込まれ死亡したものの。			49
2011	8	3 ~ 4	当該事業場は、数店舗経営しており、被災者は、各店舗を回り売上の集計業務等を行っている。平成23年8月22日、店舗巡回中に、ある店舗の2階事務室にて椅子に座ってパソコンデータの確認作業をしていた際に、意識不明となり「急性下壁心筋梗塞」と診断され、平成23年11月1日に死亡したものである。	921	90	1~ 9
2011	6	17 ~ 18	事業場建屋（ボーリング場）屋上の断熱防水工事が完了し、支配人である被災者は、その施工状況を確認するため、工事業者が設置した仮設昇降階段（クサビ式鋼管足場材によるもの）を使い、屋上に向かっていたところ、地上10.5メートル付近より転落した。目撃者はなく、昇・降の別は不明のところ、水平部材に変形があるため、この位置からの転落と推定した。仮設昇降階段の地上登り口には警戒ロープのみで立入禁止表示はない。	411	1	10 ~ 29
2011	3	9 ~ 10	ボウリング場レーンのボウリングのピンをセットする機械（以下ピンセッター）内において、被災者が当該ピンセッターの修理をしていたところ、機械が急に動き出し、ピンを持ち上げる機械と上部のフックの間に後頭部および頸部を挟まれ、発生から18日後に死亡したものの。	169	7	10 ~ 29
2012	4	10 ~ 11	事業場であるクマ牧場にて、複数の労働者で牧場内の通路の除雪作業、クマへの餌やり作業等を行っていたところ、運動場から逃げ出したクマ（ヒグマ）に被災者が襲われ死亡した。なお、当該運動場は、コンクリート塀で囲まれ、更に上部には柵（フェンス）が設けられていたが、運動場は雪が溜まった状態（雪山）となっており、クマは当該雪山をよじ登って柵を越え、脱走した。	719	90	1~ 9
2012	4	10 ~ 11	事業場であるクマ牧場にて、複数の労働者で牧場内の通路の除雪作業、クマへの餌やり作業等を行っていたところ、運動場から逃げ出したクマ（ヒグマ）に被災者が襲われ死亡した。なお、当該運動場は、コンクリート塀で囲まれ、更に上部には柵（フェンス）が設けられていたが、運動場は雪が溜まった状態（雪山）となっており、クマは当該雪山をよじ登って柵を	719	90	1~ 9

			越え、脱走した。			
2012	7	16 ～ 17	被災者は刈払機を使用し単独で土手における草刈り作業を行っていたところ、土手の端の石垣（高さ約1m強）から転落し、頭を負傷した。発見時、被災者は会話ができる状態であったが、その後搬送された病院にて容態が悪化し、死亡した。	418	1	10 ～ 29
2013	1	12 ～ 13	馬の調教を行うため、厩舎から馬場へ馬を引いていた。馬場前で騎手を乗せる準備をしていたところ、暴れた馬の頭部が被災者の胸部に当り、飛ばされた拍子に頭部をアスファルトにぶつけた。	719	6	1～ 9
2013	1	17 ～ 18	被災者は、テニス練習場において、テニス指導員として中高生を対象にテニススクールのレッスンを行っていたところ、生徒の往復疾走に併走してバックステップをしていた際、後方から転倒し、頭部を激しく強打した。	417	2	10 ～ 29
2013	6	8 ～ 9	被災者は、海岸に置かれていた地引き網用のロープを、車両系建設機械を改良した地引き網用の巻き上げ機の先端に取り付けた回転用ドラムで巻き上げていたと推測される。この回転用ドラムの近くで倒れていた被災者が発見され、病院に搬送したが死亡した。	219	7	1～ 9
2014	10	9 ～ 10	普通貨物自動車を運転し、国道上を走行中、センターラインをはみ出し、対向車と正面衝突した。	231	17	50 ～ 99
2014	1	3 ～ 4	店舗内地下1階で、被災者が使用済み消臭用スプレー缶（1本：450ml）の残ガス抜きを行っている途中、煙草を吸うためライターに火を点けたところ、突然爆発し、付近に居合わせた他2名の労働者とともに被災した。尚、爆発は1回で、他2名は重症1名、軽傷1名。消臭スプレーの残ガスはLPGであり可燃性。約30本のスプレー缶が確認されたがどの程度の本数、残ガスを抜いていたかは不明。	513	14	30 ～ 49
2015	6	0 ～ 1	国立公園での研修中、渓谷を下りる際、40度以上の高温環境下で熱中症が原因とみられる体調不良により死亡した。	715	11	30 ～ 49

2016	9	0 ～ 1	勤務途中から行方不明となっていた被災者がスキー場Cリフトの支柱の下に倒れて死亡しているのが発見された。	418	1	1～ 9
2016	9	10 ～ 11	被災者はレース出馬前の馬を、厩舎内の洗い場で、単独で手入れをしていたが、馬が暴れる音を聞いた同僚が、洗い場に行ったところ、うつぶせで倒れている被災者が発見された。発見直後、病院に搬送されたが、死亡した。	719	6	1～ 9
2016	5	7 ～ 8	スキー場駐車場内において、他部署の同僚が車庫から社用車（ワゴン車、車体重量2.5t、排気量2900CC、10人乗り）を移動させるためバックさせていたところ、車体後部にいた被災者に激突した。そのため、倒れた被災者が後輪のタイヤに頭部を轢かれ、くも膜下出血により、搬送先の病院にて死亡した。	231	7	10 ～ 29
2016	3	17 ～ 18	見回りに出かけた職員が帰ってこないで他の職員が探しに行ったところ、階段の下で被災者が仰向けに倒れているのを発見した。被災者は頭部から大量に出血しており、救急車で病院に搬送されたが、同日、脳挫傷により死亡。	413	1	1～ 9
2016	3	8 ～ 9	被災者は山頂停留場にてリフトの始業点検後、試運転中に機械室2階で高速回転するシャフトに左腕を巻き込まれ、1階に墜落し、全身から出血し倒れているところを同僚に発見され救急搬送された。その後、病院へ搬送されたが、死亡が確認された。	121	7	100 ～ 299
2016	1	12 ～ 13	被災者は同僚と2名でスキー場の一次閉鎖に伴う整備作業に従事し、作業終了後、同僚が運転する雪上車に乗って下山した。被災者は麓の駐車場付近で雪上車から降りた後、被災者がけがで使用していた松葉杖を同僚が運転席から手渡そうとして手を伸ばした時、誤って、同僚の腕が運転席のアームレスト先端に取付けてある走行操作レバーに触れてしまい、雪上車が前進し、履帯の前にいた被災者は胸部及び下半身を履帯にひかれた。	239	7	10 ～ 29
2017	12	6 ～	作業から戻って来ない被災者を探しに行ったところ、釣り堀の池に浮かん	713	10	1～

		7	でいる被災者を発見した。			9
2017	10	14 ～ 15	ボートシュノーケリングツアー中に、ダイビングインストラクターが水深15～16mの海底に沈んだまま動かなくなっているのが発見された。当該インストラクターは、ツアー中の休憩時間を利用して素潜りの練習をしていた。	713	10	1～ 9
2017	2	12 ～ 13	マンション5階の屋上の除雪作業中に、屋上の端から地上に墜落（約15m）し、意識不明の状態での病院へ搬送され、その後死亡した。	418	1	1～ 9
2017	1	6 ～ 7	ゴルフ練習場の池にある人工島で、利用者が打ち放ったゴルフボールの回収作業を単独で行っていた被災者が、人工島に渡るため自ら操縦して人工島に接岸させていたボートが岸から離れてしまったため池に入り泳いでボートを追いかけていったところ、人工島から約20mの付近で水中に沈み姿が見えなくなった。その後、捜索中の消防隊が水深約2.4mの池底に沈んでいる被災者を発見し、病院に搬送するも死亡が確認された。	713	10	30 ～ 49
2018	11	8 ～ 9	観光農園の店頭で販売するブドウの在庫が減ったため、作業床が昇降する車両系の機械で、店先の駐車場上の高さ約4.3mのブドウ棚で栽培しているブドウを摘み取る作業をしていたところ、当該作業床から墜落したものの。	169	1	10 ～ 29
2018	9	10 ～ 11	三脚脚立を使用して地上約1.5メートルの高さから底の内部の雨水排水路のごみ取り作業中、脚立が倒れ、高さ3.26メートルの底にぶら下がった状態になり、その後、落下した際、頭部を打ち、後日死亡したものの。	371	1	1～ 9
2018	6	10 ～ 11	パラグライダースクールにて、被災者と利用客が、2人乗りパラグライダーでフライト中、キャノピー（布製の翼部）が窄まり、約30m上空から地面に墜落した。	999	1	1～ 9
2018	6	14 ～	被災者は営業職であり、外回り中に自宅に立ち寄り昼食を取った後、同日午後に嘔吐し倒れているところを家族が発見し、その後、救急車で病院に	921	90	100 ～

		15	搬送されたが用実急性心筋梗塞により死亡した。被災者の発病前6か月平均の時間外労働時間は80時間以上であった。			299
2018	1	16 ～ 17	被災者は運転手として、送迎業務を行っており、交差点で右折していたところ、直進してきた対向車（運転者は労働者ではない）と衝突したものの。	231	17	1～ 9
2019	12	8 ～ 10	被災者は、始業時清掃・点検作業を行うため、事務室より被災者のみでトンネル内へ向かった。その後、戻らないため、警察・消防に行方不明の通報をした。捜索中の消防が川で横たわっている被災者を発見したが、すでに心肺停止であった。	418	10	1～ 9
2019	5	10 ～ 12	スキー場の営業終了に伴う片付け作業において、不整地運搬車の荷台に労働者2名を乗せて移動していたところ、残雪があり坂を登ることができず滑り落ち路肩へ横転した。荷台に乗っていた労働者1名は荷台から投げ出され脳挫傷のため死亡し、運転手は左手指の粉碎骨折を負った。	227	1	30 ～ 49
2020	3	16 ～ 18	事業場所属の労働者が、所在する系列店で業務打合せを行う出張のため、自家用車を運転して、自動車道を走行していたところ、ハンドル操作を誤って走行車線側の法面に乗り上げて転覆して炎上し、死亡した。	231	17	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。